

2019年5月24日

## 「性暴力被害経験に関する質的研究」

### 【研究概要】

#### 1. 研究目的

司法で犯罪として扱われる「性犯罪」は被害当事者の認識する「性暴力」とは異なっており、これが問題となっている。本研究では、当事者の認識する「性暴力」を深く理解するために、インタビュー調査を実施し、「望まない性交」の被害状況、被害後の援助希求、被害後の心理社会的影響及び被害認識の形成過程を整理する。それにより、当事者の認識する性交「同意」や「性暴力」の経験を明らかにし、刑法改正議論、被害潜在化防止及び被害者支援に役立てる。

2. 調査協力者：「自分では望んでいない性交」の経験のある、20歳以上の女性

3. 調査方法：個別インタビューおよび自記体験談（オートバイオグラフィー）

#### 4. 研究機関名及び研究チーム氏名

研究責任者	齋藤梓	目白大学 人間学部 心理カウンセリング学科 専任講師
	大竹裕子	オックスフォード大学医療人類学研究室 リサーチフェロー
分担研究者	宮本有紀	東京大学大学院 医学系研究科 精神看護学分野 准教授
	高野歩	東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科 准教授
	松本衣美	東京大学大学院 医学系研究科 精神保健学分野 客員研究員
	松井周	東京大学大学院 医学系研究科 精神看護学分野 客員研究員
	江口のぞみ	東京大学大学院 医学系研究科 精神看護学分野 大学院生
	岡本かおり	清泉女学院大学 人間学部心理コミュニケーション学科 准教授
	金田智之	一般社団法人 Spring 調査研究チーム 研究員
研究協力者	山本潤	一般社団法人 Spring 代表
	キタ幸子	東京大学大学院 医学系研究科 家族看護学分野 助教
	鈴木萌	一般社団法人 ちゃぶ台返し女子アクション

### 【調査協力人数】

インタビュー調査ご協力	31名（学生3名、有職18名、その他10名）（20代-60代） ※被害を複数回経験している方もいたため、件数は41件
体験談のみご協力	20名

### 【現在までの発表論文】

齋藤梓・大竹裕子，2019，当事者にとっての性交「同意」とは－性暴力被害当事者の視点から望まない性交が発生するプロセスをとらえる－，年報公共政策学，13，北海道大学公共政策大学院

齋藤梓・岡本かおり・大竹裕子，2019，性暴力被害が人生に与える影響と被害認識との関係－性暴力被害の支援をどう整えるべきか－，学校危機とメンタルケア，11，p32-52.

表1 分析対象件数概要（件＝被害件数でカウント／人＝協力者人数でカウント）

		インタビュー	体験談のみ
被害時	成人	19 件	8 件
	未成年（うち 13 歳未満）	22 件（8 件）	13 件（6 件）
	不明		1 件
加害者属性	顔見知り（友人・先輩等）	15 件	7 件
	見知らぬ人（元々の知人ではない）	11 件	3 件
	（元）パートナー	5 件	4 件
	父親・養父・母の恋人	5 件	3 件
	上司	3 件	1 件
	きょうだい	2 件	2 件
	不明		2 件
加害者性別	男性	39 件	21 件
	女性	2 件	1 件
内容	飲酒・薬物の使用	7 件	2 件
	継続被害	7 件	9 件
	親族からの虐待	7 件	5 件
	集団での被害	2 件	1 件
犯行に至る プロセス （メインのみ）	奇襲型	9 件	
	飲酒・薬物使用を伴う型	6 件	
	家庭内性暴力型	7 件	
	エントラップメント型	19 件	
被害の認識まで かかった期間	出来事直後	6 件	
	1 年以内	8 件	
	5 年以内	9 件	
	10 年以内	4 件	
	10 年以上	9 件	
	被害だと思いきれない／不明	4 件／1 件	
被害の影響	自殺念慮・自殺企図エピソード	20 名	
	トラウマ反応エピソード	26 名	
	抑うつエピソード	26 名	
抵抗型	無抵抗	24 件	
	言語的抵抗	14 件	
	身体的抵抗	3 件	
暴行脅迫有		13 件	6 件
警察相談有		9 件	3 件
警察届出有		8 件	1 件
起訴		2 件	0 件
有罪		2 件	0 件

\* 体験談のみの場合は、詳細の確認ができないため、内容以下は参考数